(100)　地域開発と市民意識についての一考察

福島高専　　正会員　高橋邦雄
いわき市　　川又紀夫
福島高専　　○学生員　宍戸　朗

1．はじめに

近年，地方中小都市は，地域総合計画などにより，広域都市づくりの傾向にある。反面，地域開発に伴う都市環境の悪化は著しく，〔科学，工学，政策，意志決定等(1)〕の細分化により，それぞれに種々の問題を引き起こしている。これは明らかに都市政策の策定という，開発的制御手段の検討において，その失敗，ないしは不在を物語っているといえよう。従ってその策定に際しては強い客観的ルールに従わないまでも，なんらかの方法で客観的に整理され，組織化された情報に基いて科学的検討を行なうことが急務であると考えられる。

本研究は，日本一の広域都市（いわき市）における，都市政策の策定に対して，「将来における生活，及びまちづくり」という観点から，多様化している市民意識，市民の価値観，方向を把握することにより，S45年に策定した「いわき市総合開発計画」を見直すと同時に，広域都市開発を進める上での基礎的な資料とするために行ったものである。

2．市民意識調査

2-1. 調査の目的と内容

前述のとうり，地域開発に伴う種々の問題は，各地域に左右される個別の問題であるため，市民の側からの小地域情報を得ることを目的とした調査の内容は，a)地域生活意識Ⅰ（都市住民の意識を生活の諸側面において，個人をとりまくものとしてとらえたもの），b)地域生活意識Ⅱ（同じく住民の意識を都市生活全体とのかかわりにおいて総合的にとらえたもの）である。

2-2. 調査の方法

調査の方法は留置方式を用い，抽出法は選挙人名簿(S50.3)から無作為抽出（およそ100等間隔）によった。尚，調査の母集団は，市内に居住する20才以上80才未満の男女で標本数は2,300人である。

2-3 調査期間と調査地域

調査期間は，昭和50年5月～7月で調査地域はいわき市全域―図-1参照

2-4 調査票の配布と回収

調査票の配布と回収結果は，それぞれ図-1の数値表示を参照，尚，回答者の内訳は右表の表-1に示す。

※ 図-1の説明

調査内容の一例として「開発か自然保護か」についての回答結果を棒グラフに示した。（他項目については当日発表）

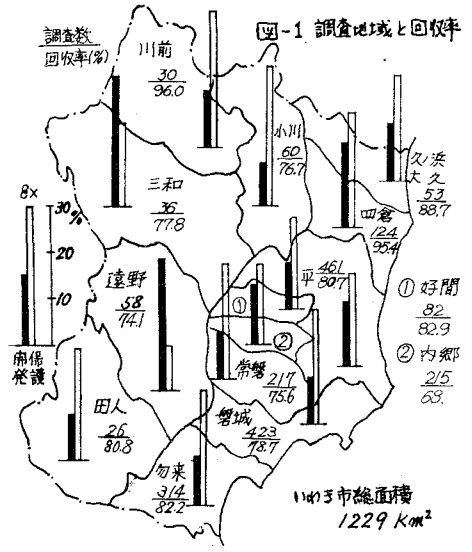


図-1 調査地域と回収率

表-1 回答者の内訳

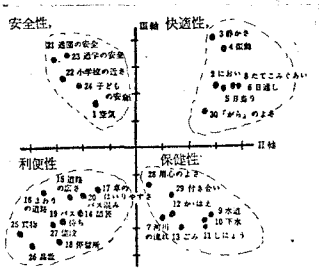
		専門職	管理職	事務員	販売店員	農林水産業	自家営業	サービス業	内職・学生・専業主婦	その他
年令	20～24	5.9	—	24.8	22.9	2.0	5.2	9.2	—	30.0
	25～29	4.8	1.8	21.4	22.6	5.4	10.1	4.8	—	29.1
	30 代	3.7	3.4	16.9	21.5	10.9	11.5	5.2	—	26.9
	40 代	3.4	3.4	18.8	21.9	15.2	10.7	3.7	—	21.9
	50 代	1.5	6.4	10.6	18.7	21.6	14.4	2.7	—	24.1
	60以上	2.7	4.1	1.4	4.8	21.8	12.2	2.7	1.4	48.9
地区	平	3.8	4.9	24.9	14.6	10.0	9.5	4.6	—	27.7
	磐城	3.9	2.4	12.9	19.8	10.8	12.0	4.8	—	33.4
	勿来	2.4	5.2	13.9	26.6	9.1	14.7	2.8	0.4	24.9
	常磐	4.3	6.1	12.9	28.2	5.5	10.4	6.1	—	26.5
	内郷	5.4	2.7	16.3	19.7	0.7	15.0	4.1	—	36.1
	四倉	2.5	1.7	11.6	20.7	23.1	6.6	4.1	0.8	28.9
	遠野	2.3	—	14.0	16.3	37.2	18.6	—	—	11.6
	小川	2.2	2.2	8.9	22.2	28.9	11.1	2.2	—	22.3
	好間	3.0	4.5	19.7	28.8	7.6	6.1	3.0	—	27.3
	三和	3.6	—	14.2	3.6	53.6	14.3	10.7	—	—
	田人	—	—	14.3	4.8	47.6	14.3	—	—	19.0
	川前	—	4.2	4.2	8.3	58.3	4.2	—	—	20.8
	久之浜・大久	2.1	4.3	12.8	21.3	23.4	6.4	4.3	—	25.4
	計	2.7	2.9	13.9	18.1	24.3	11.0	3.6	0.1	23.4

3．調査結果の要約

3-1．地域生活意識(I)

この項の質問内容は，住居，近隣生活，仕事と余暇，教育と福祉，生活志向の5項10問からなり，市民の個人的生活側面からの意識を対象としたものである。結果，住居の環境条件としては，利便性より「緑．静かさ」に象徴される快適性を望む声が極めて高く，自然環境に対する意識の高まりと見るべきであろう。尚，(S46，富田・高橋の「都市開発のための生活環境調査に関する研究」と比較(図-2)すると，市民の意識としては，i)都市化に伴うトレード・オフにより快適性・安全性に向っている。ii)今回の調査で，仕事と余暇，生活志向等から余暇に対する公共施設，レクリェーションの場の整備が望まれている。

図－2 セントロイド法による分析結果



3-2．地域生活意識(II)

ここでは，i)めき市の今後の開発方向，各地区の発展方向，施設整備，市政と市民の結びつき，いめき市への定住意志の5項9問からなり，市民の社会的側面からの意識を対象としたものである。結果として次のようなことが言える。i)一部の郊外地区を除いて，全体としては，自然保護を優先させながら生活環境を整備する方向にある。ii)，産業振興の方向としては，観光・田園都市に工業・流通機能を加味したイメージを描いているようであるが，市民意識は極めて多様である。(広域多核都市の一つの現象であろう。)
iii) 市政への参加・市への定住意志は，ともに極めて高く，地方都市であることと市民の「郷土意識」の表れであることがうかがえる。

図－3 インパクト・マトリクス

空間	副空間	事象部	平	磐城	勿来	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久慈
自然空間	110 物理空間	111 地 勢	－	－	－	－	－	×	△	△	×	○	○	○	○
	220 植物空間	221 緑地図	－	－	－	－	－	△	○	△	△	○	○	○	○
	240 視覚空間	241 メカニズム	△	×	×	△	△	×	－	－	－	－	－	－	－
社会空間	30 集団空間	311 コミュニティ	○	○	○	○	○	△	×	×	△	－	×	－	－
		312 人 口	○	○	○	○	○	△	－	△	△	－	－	－	－
	330 現象空間	331 文 化	○	○	△	△	△	△	－	－	－	－	－	－	－
汎技術空間	410 技術空間	411 技術開発	△	×	△	△	△	△	－	－	－	－	－	－	－
	420 生産空間	421 工 業	△	⊘	⊘	△	－	△	－	－	－	－	－	－	－
	430 展開空間	431 都 市	○	○	△	⊘	⊘	△	－	－	－	－	－	－	－
		432 田 舎	－	－	－	－	－	△	○	○	△	⊘	○	⊘	○
		433 交 通	⊘	○	△	○	⊘	△	△	－	－	×	×	×	－
		434 商 業	○	○	⊘	△	○	△	－	△	△	－	－	－	－

空間	副空間	事象部	平	磐城	勿来	常磐	内郷	四倉	遠野	小川	好間	三和	田人	川前	久慈
自然空間	110 物理空間	111 地 勢	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	220 植物空間	221 緑地図	△	×	－	－	△	△	－	○	－	－	○	－	－
	240 視覚空間	241 メカニズム	△	×	×	△	△	△	－	－	－	－	－	－	－
社会空間	30 集団空間	311 コミュニティ	○	－	○	－	○	×	－	△	－	－	△	－	－
		312 人 口	－	○	－	－	－	△	－	○	－	－	×	－	－
	330 現象空間	331 文 化	○	○	－	○	△	－	－	－	－	×	－	×	－
汎技術空間	410 技術空間	411 技術開発	△	×	△	×	△	－	－	－	－	△	－	－	－
	420 生産空間	421 工 業	△	⊘	⊘	△	△	△	－	－	－	－	－	△	△
	430 展開空間	431 都 市	－	－	△	⊘	⊘	－	－	－	－	○	－	○	－
		432 田 舎	－	－	△	○	○	－	－	－	－	⊘	－	⊘	－
		433 交 通	⊘	－	－	－	⊘	－	－	×	－	－	－	×	－
		434 商 業	○	－	⊘	－	－	○	－	○	－	－	×	－	－

※(上図)①いめき市の現状によるインパクトマトリクス
(下図)②市民の意識による 〃
○適合地域 ×問題地域
△要検討地域 －問題化として表れない。
⊘ 両マトリクスから考えられる問題地域

4．分析結果と考察

分析方法は，環境アセスメントの基礎手法①(プリ・エンバイロメンタル・アセスメント)を使用し，インパクトマトリクス(右図)の作成にあたっては，都市施設整備水準を，サブシステム(注目事象)としてとりあげ，その都市環境の中で市民がどのような生活環境を実感しているかを結びつけようとした。(結果は右図－3)
考察として，施設整備水準(計測可能)と，住民の生活実感(個人的主観)が直線的に結びつく保障はないが，本調査は第1段階として図-3の ①いめき市の現状によるインパクトマトリクスと，②市民の意識によるインパクトマトリクス，との斉合性を見出すことにより，本研究の評価とした。
その結果，今後の問題点としては，i) 421.工業.において(磐城・勿来)地区に①と②が相反しており現状と意識の間に問題点が指摘された。ii) 431 都市では(常磐・内郷)地区で，現状では都市化が行なわれているにもかかわらず意識では適正な都市化を希んでいる。iii) 434 交通で(平.内郷)地区の都市交通の施設に対する利便性と意識からくる安全性の間に今後のプロジェクトの方向がうかがえる。

5．まとめ

①いめき市のような広域都市で，まだ自然度が高い都市における開発に対して制御的アセスメントを行う基礎データを得ることが出来た。②合併都市の問題点が指摘され，物理的広域都市化と市民意識連合との間の隔たりを知ることが出来たが定量化には至っていない。③今後は，数量化等により，より具体的な分析を行っていきたい。

〔参考文献〕①「環境アセスメントの基礎手法」吉川博也，鹿島出版会．②「都市社会システム」石原舜介，日刊工業新聞社